

魂之塔、ニティヤ洞、アハシャガマ、公益質屋跡、映画「木の上の軍隊」ロケ地等）を巡る中で、何故戦争が起きてしまったのか、どうすれば戦争を止められたのかを、歴史から学ぶと共に、本校のミッションステートメントである、

「わたしたちは、神さまに愛されている人として、互いに愛し合い、互いの必要に応え、世界のどこにいても平和をつくり出し、神さまの栄光を現すために共に学び、働きます。」

を実践するために、平和な世界は誰かがプレゼントしてくれるものではなく、わたしたち一人ひとりが、毎日の中で少しずつ、平和を創り出していくものであることについて考えた。
(関東)

◇戦後 80 年ということでの特別な授業や活動は行いませんでしたが、2025 年 9 月最初の始業礼拝で校長からこの夏は戦後 80 年であることと平和についての礼拝のときを持ちました。
(関東)

◇（礼拝）

本校の宗教教育部では、年間計画の中で各月のテーマを掲げて礼拝を捧げているが、2025 年度も 9 月は毎朝礼拝メッセージで平和に関する聖書箇所を取り上げ、過去や現在の戦争に触れることもあった。週 5 日の内 2 日は児童礼拝としているが高学年児童が、聖書朗読、短い講話文（教員と準備）、祈りを担当して内容を深めた。

（授業）

《低学年》「平和って何だろう」の問いに対して自由な発言、自分がイメージする平和の絵、などを表現し、神様がくださる平和を聖書から聞いた。絵本の参考も。

《高学年》夏休みに過去の戦争について調べ学習をしてきた児童の話聞き、「なぜ戦争をするのか」「戦争は殺人ではないか」という課題を児童の言葉で語り出し、過去だけでなく現在の世界の状況を探り出した。授業準備としては、旧約から新約まで平和について語られている箇所の提示、日本国憲法の文言、絵本「うけとろうへいわ」「戦争ってどんなこと」の内容を各自の ipad に送り、人間の尊厳、命の尊さ、十戒の語る神の平和、を共有し意見交換をした。
(関東)

◇礼拝感話

7月の礼拝で、やなせたかしさんの実話から、戦争で最も恐ろしいことは飢えである。という話をした教員がいた。その次の教員は、戦争には実はルールがある。しかし、そのルールは守られたためしがない。という話があり、次の教員（私）は、七夕大空襲の話をし、甲府の空襲を体験した叔母の話をした。他にも、許すこと、隣人愛、など、聖書を基盤にして、自分に近い平和から、世界平和など幅広く、テーマを投げかけて考える時間を作った。特に、戦後 80 年を意識したかということ、そこまで意識したものではないが、今年度から、平和教育月間として、4、9月の礼拝はとことん戦争について考える礼拝にするようにただいま計画中。
(関東)

◇長崎の爆心地で平和集会（礼拝）・平和学習（全学年）・講師を呼んでの平和学習・教員の平和教育研修会（長崎を訪れて・講師依頼）
(西南)

〔中学校・高等学校〕 27 件

◇戦後 80 年 被爆体験者の証言展への参加（東北・北海道）

◇・高3 聖書科にてホロコーストの単元を毎年設けている。
・沖縄修学旅行にて、卒業生（戦争経験者、沖縄からの留学生）の講演会を実施した。
（東北・北海道）

◇礼拝・修学旅行・聖書科授業

礼拝担当教員が覚えて礼拝で話をしたり、長崎校外研修旅行に参加した中学3年生や、沖縄・台湾校外研修旅行に参加した高校2年生が礼拝で感話を担当してくれた。聖書科の授業で、夏休みを過ぎた後期の授業の期間テキストに掲載されているコルベ神父を毎年取り上げたり、生徒に第二次大戦中の特攻兵の遺書や映像を視聴したのち感想をかいてもらって共有をしています。
（東北・北海道）

◇礼拝・HP メッセージ・研修旅行ほか

高校では学期中に毎週礼拝を行い、礼拝の奨励を直近の日曜日に日曜メッセージとしてHP上で公開をしています。平和教育は高校のキリスト教教育の中心に位置づけられていますが、戦後・敗戦80年を覚えつつ、戦争と平和の問題を扱った礼拝は、5月28日、6月18日、6月25日、8月20日、8月27日、9月3日、9月10日の礼拝と、その内容を記した6月1日、6月22日、6月29日、8月24日、8月31日、9月7日、9月14日日曜メッセージです。授業と活動としては、研修旅行においてコースごとに訪問地が異なるのですが、特に沖縄、韓国、ヨーロッパの研修では戦争、異文化理解、国際交流、自然との共生といったテーマを通して「平和」の真の意味を考える機会を持ちました。また、部活動や生徒の自主的活動において、ボランティア活動を積極的に行い、それらもまた平和に資する活動として位置付けられています。
（東北・北海道）

◇平和七夕 50 回記念講演会・平和祈願礼拝・全校での平和七夕への取り組みと奉仕活動・聖書科授業

講演会は日本被団協の田中熙巳先生をお招きして、一般公開の講演会を実施しました。企画運営は宗教部に所属する生徒が行いました。
（東北・北海道）

◇チャペルアワー、ホームルーム礼拝、聖書科授業（関東）

◇礼拝

1学期に「平和」をテーマにした礼拝、2学期に「共生」をテーマにした礼拝をそれぞれ1週間ずつ（月～金）行った。それぞれ3日間は講師をお呼びし、戦争による憎しみから和解に導かれた実話などをお聞きした。
（関東）

◇演劇鑑賞ほか

青年劇場『あの夏の絵』狛江公演（2025年7月3日）鑑賞を呼びかけ、後日鑑賞した生徒の礼拝での感話。
（関東）

◇朝礼講話

朝礼（本校ではアッセンブリー）の中で校長、教頭から講話のテーマとして扱われました。校長の講話は現在劇場公開中の「ペリリュー～楽園のゲルニカ～」に関して、教頭の講話では岩波書店編『私の戦後 80 年、そしてこれからのために』より本校の卒業生でもある堂本暁子さんの談話が取り上げられました。（関東）

◇校長講話

始業式・終業式などの中で、校長が平和をテーマにお話しするようにした。（関東）

◇学校の戦前から戦後を振り返るため小冊子の編纂と発行（関東）

◇ ・ 広島研修旅行(中 3)

・ 長崎研修旅行(高 2)

・ ベトナム・スタディツアー（高 1、高 2）

・ 講演会(中 1～高 3)

（関東）

◇中学部の礼拝・修学旅行

・「生徒による礼拝～戦後八十年を覚えて祈りを捧げる礼拝～」

生徒が戦争・平和について考え祈りの言葉を準備し、礼拝内で祈る時を持った。

在籍生徒が少ないため、全員で行えている。

・ 2 学期の主題聖句

「平和を実現するとは」とし、礼拝説教内で関連するメッセージを行った。

・「戦後 80 年」の掲示板設置

8 月 6 日・9 日・15 日などの各社新聞の戦争関連記事を掲示した。

・ 本校は修学旅行の行き先を生徒自身が話し合って決めている。今年度の中学 3 年生は、2 年生までの経験と戦後 80 年も意識し、まず一番に広島行きを選択した。行く際には後輩や小学部児童にも協力を依頼し、千羽鶴を作って広島に持参した。（関東）

◇ ・ 講演企画で関連するテーマで講師にお話しいただいた

・ 中学高校修学旅行（平和学習）の事前学習

（関東）

◇朗読劇 有志生徒による朗読劇「星は見ている」の上演（3 月に実施予定）

（関東）

◇平和学習の映画を鑑賞

（関東）

◇全校礼拝の感話、聖書科授業

（関東）

◇伝道週間(秋)の講演者に戦争体験のある方、語り部の方を招いてお話を聴いた。（関西）

◇特に、戦後 80 年だからということでの礼拝等はないが、礼拝の中でテーマにされたことは何度かある。（関西）

◇授業（沖縄戦の解説および原爆について）

（関西）

- ◇ ・夏季休暇の出校日を「平和を考える日」と定めており、全校生徒で礼拝を捧げ、その後の LHR において、毎年異なるテーマで、生徒自身による、高校生目線で考える、「平和のためのプレゼン」がなされる。今年は、戦後 80 年として、「第 69 回、国連女性の地位委員会」(CSW と呼ばれる、女性の地位向上のための国連加盟国会議)に参加した本校の卒業生・沖崎あいみさんに「沖縄軍事基地問題」について講演してもらい、在校生と一緒にプレゼンも行った。
- ・10 年前の 2015 年より、広島女学院高校の「ヒロシマ、核廃絶署名実行委員」の方々と交流があり、毎年、広島平和記念公園において、女学院生と一緒に約 20 人の本校生徒も署名活動をさせていただいている。今年は、戦後 80 年ということで、この署名活動のプログラムに広島市長が参加され、マスコミで大きく取り上げられ、報道された。毎年、文化祭の機会に、その署名活動を行っている。
- ・1944 年 12 月の名古屋市三菱重工業の航空機工場(現バンテリンドームナゴヤの付近)への空襲を覚えて、「平和祈念モニュメント『光の折り鶴』」という、折り鶴に「平和への祈り」を書いて展示するという企画があり、生徒が参加した。当時、学徒動員された本学生徒も、そのときの空襲で犠牲になっており、校内で平和が取り挙げられるときは、必ずそのことも語られる。このモニュメントは、戦後 80 年も記念されており、ドラゴンズの選手の折り鶴もあり、生徒も出席したその点灯式には、名古屋市長も列席され、平和への祈りを共に捧げた。(関西)
- ◇総合的な探究の時間を開校(「原爆から学ぶ平和」) (関西)
- ◇礼拝講話・奨励

日本キリスト教団広島牛田教会の西嶋佳弘先生をお招きし、「被造物のうめき」と題して宗教週間特別礼拝を行った。被爆について、平和運動について、また日本の加害についてもお話しいただいた。また普段の毎日のチャペル礼拝においても、奨励者(学院中高全教員)の多くが戦後 80 年を意識し、戦争・平和をテーマに奨励を行った。(関西)
- ◇礼拝、聖書科授業 (関西)
- ◇礼拝ほか
 - ・1945 年 6 月 19-20 日に起こった福岡大空襲を覚える平和礼拝(平和を願う週間：全校対象、授業、講演会を連動して実施)
 - ・8 月平和礼拝(平和を願う月間：全校対象、授業、沖縄平和研修旅行実施) (西南)
- ◇特別講演会

中学全学年と高校 3 年生を対象に、ホロコーストの生き残り体験を語り、ユダヤ人迫害の歴史を追憶するピアニストであるヤーノシュ・ツェグレディ氏を招いた。(西南)
- ◇平和祈念集会(毎年 8 月 9 日に実施しているものを今年も実施) (西南)

〔大学・短期大学〕 13 件

◇平和学、職員研修会、学園が譲渡されたノーモア・ヒバクシャ会館関連活動（道主催ヒロシマナガサキ展）（東北・北海道）

◇礼拝・授業・集会

大学では学期中に毎週礼拝を行っており、平和は中心をなす課題です。戦後・敗戦 80 年を覚えつつ戦争と平和の問題を扱った礼拝は、5 月 27 日、7 月 1 日、7 月 8 日、7 月 29 日、9 月 30 日、10 月 14 日、11 月 4 日の礼拝です。

授業としては、外部講師にも担当いただいているということもあり、報告者が担当する授業（キリスト教学、キリスト教と諸宗教、専門ゼミナール）では、戦争と平和について聖書やキリスト教の歴史、文化を通して学ぶ機会を儲け、専門ゼミやゼミ研修でも平和を重要なテーマとしています。

活動としては、2025 年度の教育同盟の大学部会研究集会の担当校を担い、テーマとした「平和」について戦後・敗戦 80 年を特に覚えた内容として行ったことを契機として、集会後に学園の常任理事と宗教主任等が一堂に会して、平和の問題について考え、キリスト教教育として活かしていくことを話し合いました。（東北・北海道）

◇戦後 80 年を迎え特別なことはしていませんが、神がどれほど人を愛しているかということ礼拝の讃美歌、聖書拝読、メッセージで学びます。（東北・北海道）

◇7 月の大学礼拝において、戦後 80 年をふまえた礼拝説教を行なった。（東北・北海道）

◇特別講座

法人主催のキリスト教講座「永井隆『長崎の鐘』平和への祈り」を 7 月 11 日に開催、中学 2 年のロングホームルームも兼ねて大学・中学連携して平和の尊さを学ぶ時を持った。リベラルアーツ科目の一環として教員 2 名と学生数名が韓国に行き、その時の体験を引率教員が礼拝説教の中で分かち合った。（東北・北海道）

◇「アンネのバラ」を用いた平和を覚えるチャペル礼拝の開催（関東）

◇授業「キリスト教と倫理」の一回を「戦争」をテーマに掲げて学んだ。（関東）

◇サマーリトリート（平和を祈るパイプオルガンコンサート）（関東）

◇授業の中で、歴史の中で行われた虐殺の恐ろしさを取り上げています。（近年平和教育について礼拝・授業・活動は行っていません。）（関東）

◇平和学特別演習「ヒロシマ」

【授業目的】 広島と長崎への原爆投下から 80 年が経過し、原爆被害をめぐる問題は、多くの人々の関心から遠のいているかのようである。しかし、ひとたび、関心を寄せれば、未解決のまま残されている多くの問題、この問題が現代社会にもたらした大きな影響に気付くことだろう。原爆被害に基づいて生まれた文化を取り上げ、ヒロ

シマの視点から、地域や国内外の諸問題（中でも、核廃絶をめぐる日本と世界の状況）に思いをめぐらし、地域でも国際社会でも、積極的に発言し行動する能力を養うことをめざす。※広島市にて実施 (関西)

◇韓国研修（9月）、大学チャペル・アワー (関西)

◇課外活動プログラム「平和学習(福岡)」の実施

主催：大学キリスト教活動支援課、日時：11/22（土）

筑豊地域の戦争遺跡を訪問（十字架の塔→無窮花堂→田川市石炭資料博物館→日中友好慰霊の碑→鞍井平和祈念館）

参加人数：15名（学生11名、教員2名、解説1名、引率1名）

その他：（事前研修）11/12(水)、（事後研修）12/3(水) (西南)

◇学生参加イベント・礼拝

長崎に原子爆弾が投下された8月9日は出席日としていますが、この日にイベントが行われました。学生に対して、「平和」をテーマに表現をしてもらいました。スローガン、絵画、ダンスを事前に募集し、この日に発表しました。

礼拝では同盟校であり、教派的にルーツが同じ北米メソジスト派の活水女子大学と鎮西学院大学が交流。活水学院の牧師が鎮西学院大学に招かれ平和をテーマに説教を行い、鎮西学院大学の牧師が活水女子大学で「平和」をテーマに礼拝で説教を行いました。両大学の礼拝による交流は初めての試みでした。 (西南)